JRAC × この本読んで！

第7回 読みきかせの達人が選ぶ 親子で読んでほしい絵本大賞 発表

今年も「親子で読んでほしい絵本大賞」10作品と、ベビー賞1作品が、JPIC読書アドバイザー92名の投票で決まりました。選出のコメントは、おはなし会などの現場で実際に子どもたちに向けて絵本を読んでいるアドバイザーならではのものです。ぜひ、参考にしてください。また、小誌読者のみなさんにも「読者賞」の投票をいただき、ありがとうございました。

★コメントを寄せていただいた JRACの方の敬称略、順不同。　撮影／J・SAKURA

『クジラがしんだら』
文／江口絵理
絵／かわさきしゅんいち
監修／藤原義弘
1,980円（童心社）

★今まで知られていなかった神秘的な深海の世界に引き込まれました。絵とわかりやすい文によって、実際にはこの目で見ることのできない深海の生命の不思議に一歩近づけた気がします。
（20期／菅 弥和乃）

★絵の迫力に圧倒されました。深海という見えない世界、その中での自然の営みを親子で味わうことのできる絵本だと思いました。　（27期／さち）

★読みきかせをしていて、子どもたちに聞いてもらえる機会がありました。あらためて、へぇーと思ったり絵の迫力を感じたり……。子どもと一緒に見ていたら、思いを共有できそうです。
（30期／坂口京子）

★謎多き深海の生態系を、わかりやすい文と美しい絵で描く科学絵本。クジラの「死」から始まる生命の物語は、壮大なドラマを感じます。巻末に深海の生物図鑑があり、子どもから大人まで科学的な探究心が高まります。
（16期／石原恵以子）

★真っ暗な海底で命のやりとりをし、輪廻を繰り返す。世代にわたり心にしみる作品です。　（13期／豊増良子）

★「深海」での食物連鎖が、繊細な絵とわかりやすい文章で綴られています。死んだクジラはどんな生物にどう関わるのか。近年の研究で明かされた実態、広大な海の中での特殊な生態系を、大人も子どもも楽しみながら読めます。　（25期／まぁぼう）

★大きな体で海を悠々と泳ぐ……。そんなクジラが死んだあと、深い深い海の底でクジラの命を引き継ぐものたちを描いたこの絵本は、生命の不思議と驚きに満ちています。迫力のある絵も言葉も解説も、親子でたっぷり味わいたいですね。　（27期／村田純子）

★なんと奥深い世界観でしょう。手に取った瞬間から、その世界に引き込まれます。底知れぬ深海の深さ、光と闇、巨大なクジラから、目に見えぬ微生物まで。静かに時が流れていきます。
（26期／minosan）

★命を終えたクジラは、死後100年にわたって深海にすむさまざまな生きもののごちそうとなり、その命をつないでいるそうです。はじめて知る壮大な深海のおはなしは興味深く、描かれた生きものたちも愛嬌があり、楽しく読めます。　（22期／有田早苗）

★人が行くことのできない深海と、そこにすむ不思議な生きものたちの食物連鎖という科学の話をわかりやすい文とかわいらしい絵で、子どもから大人まで親しめる物語にしてくれました。海のことをもっと知りたくなります。　（25期／竹村安喜子）

★深海の世界が、とても奥深く美しく描かれています。　（15期／中村典子）

★クジラの命が尽きて沈んでいったとき、深くて暗い海の底で起きている不思議な命のつながり。クジラに集まってくるさまざまな生物の命を100年にもわたって支えるという壮大なおはなし。親子で楽しめる科学絵本。
（24期／下伊豆かおり）

親子で読んでほしい絵本大賞とは

親子でもっと絵本を楽しんでほしい！　いい絵本を親子に届けたい！
との思いを込めて、JPIC読書アドバイザークラブ（JRAC）により創設されました。

選出方法：JRAC会員60名からなる選考委員が、「この本 読んで！」2025年春号～冬号の４号で紹介された新刊絵本400冊の中から候補作16作品を選出。それを、JRAC会員有志が読み、16作品の中から１～３位とベビー賞を選んで投票しました。

※JPIC読書アドバイザークラブについての詳しい説明は、P49下部に記載しています。

連動フェア実施！

この特集で紹介した絵本のコーナーが以下の書店に設けられます。くわしくは下記まで

こどもの本の店 ともだち
（神奈川県横浜市）
045-561-5815